

第40回日本エイズ学会 学術集会・総会 ランチオンセミナー8

JS  R

日時

2026年11月22日(日) 12:30~13:30

会場

岡山コンベンションセンター 1階「第2会場」(イベントホール)

〒700-0024 岡山県岡山市北区駅元町14-1

テーマ

薬害患者さんの高齢化に伴う 血友病診療と包括的ケア

座長

国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センター
エイズ治療・研究開発センター 救済医療室長

上村 悠 先生

「薬害被害血友病患者さんの 今日の課題と心理的支援」

演者1

荻窪病院 血液凝固科 臨床心理士

小島 賢一 先生

「血友病薬害被害者の現状と 今後のケアを考える」

演者2

兵庫医科大学 血液内科学 講師

澤田 暁宏 先生

本セミナーは整理券および当日予約制となっております。

会場入口にて、整理券もしくは申込画面をご提示ください。整理券および申込画面は、セミナー開始5分後に無効となります。

<整理券>【配布日時】2026年11月22日(日) 8:00~12:00【配布場所】総合受付(岡山コンベンションセンター2F) 付近

<当日予約> セミナー開催当日、参加登録のマイページ画面よりお申込みください。【配布日時】2026年11月22日(日) 7:00~12:00

共催：第40回日本エイズ学会学術集会・総会
サノフィ株式会社

sanofi

薬害被害血友病患者さんの今日の課題と心理的支援

荻窪病院 血液凝固科 臨床心理士 **小島 賢一 先生**

HIV感染と血友病を抱えながら600人を超える方々がわが国で暮らしている。どちらの疾患に対しても30年前とは比べ物にならないほど優れた薬ができ、免疫を落とさず、他者にも感染させず、定期的な静脈注射や皮下注射はほとんどの出血を防いでいる。しかし課題がなくなったわけではない。かつてC型肝炎で傷めつけられた肝臓、過去に頻回出血して進行した関節症、高リスクながん発生、他の血友病患者に比べても少ない体重、さらに高齢化を迎えての認知症発症への不安、予想される施設入所の困難さ、現実によく人が今、自分の家族の介護問題に直面している。心理的にも自己の健康評価が低く、うつ傾向も目立つ調査結果もある。診察間隔が空いてきており、医療者は少ない機会をどう活かして、状態を把握し、支援していったらよいのだろうか。個別化治療、SDM、保因者対応、PrEPなど様々な考え方、やり方が出てくる中で支援方法について考えたい。

血友病薬害被害者の現状と今後のケアを考える

兵庫医科大学 血液内科学 講師 **澤田 暁宏 先生**

治療の進歩により、血友病性出血やHIV感染症はコントロール可能となってきました。しかしながら、加齢に伴い止血管理やHIV抑制にとどまらない新たな課題に直面しています。血友病では、止血管理の進歩によりより強固な出血抑制が可能となる一方で、治療の複雑化に加え、血栓性疾患を含む心血管疾患や脳卒中のリスクが上昇し、出血傾向と血栓リスクのジレンマが生じています。また、HIV治療に伴う代謝性疾患や腎機能低下、サルコペニア（加齢性筋肉減弱現象）、フレイル（心身の虚弱状態）といった多種多様な併存疾患の増加が予想され、ポリファーマシー（多数投薬による有害な状態）などが問題となってきます。患者さんの生活を守るためには、単一の診療科にとどまらない医療、福祉、地域ケアなどの包括的な対応が必要と考えられます。治療の歴史と現状を整理し、共同意思決定に基づいた、高齢期における包括的血友病診療と支援のあり方を考察します。